



じゅうく。

19歳、未来が動き出す。

地域の方々に応援される塾を目指して

町営塾「じゅうく。」のさまざまな活動を発信しています！

連載 No. 11 / 12
Date. 2022.02

こんにちは！町営塾「じゅうく。」です。いつもご覧いただきありがとうございます！

先月号の特集では、より多くの方に「じゅうく。」の様子を知っていただけたことを、大変嬉しく思っています。

「じゅうく。」では四十町通信のほかに、Facebookでも、塾での生徒たちの様子や、活動の報告を行なっていますので、ぜひご覧ください。引き続き、町営塾「じゅうく。」をよろしく願います！



「じゅうく。」が目指していること

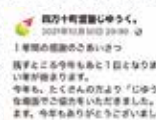
「じゅうく。」が目指す「19歳、未来が動き出す。」は、高校を卒業した生徒たちが、**自分の意志でより良い未来を実現できる力**を身につけてほしいという願いを込めた言葉です。そのために、高校3年間でさまざまなことに挑戦してほしいと考えています。また、町民の皆さんに応援していただければ、子どもたちも安心して挑戦することができると思います。「じゅうく。」はこれからも、「地域に応援される塾」を目指していきます。



Facebook
でも発信中！



このQRコードから
ご覧いただけます！



Check

See you next month!

お問い合わせ先 町営塾「じゅうく。」 ☎ 22-3163

連載

No. 4

令和6年度開館予定 /



教えて！文化的施設のことも

建物の設計はどうなっているの？

前編・後編に分けてお知らせします

◆設計のスケジュールはどうなっているの？

「基本構想」や「基本計画」に基づき、建物の方向性や大まかな仕様を決める「基本設計」が令和2年度末に完成しました。現在はそれを踏まえ、施設の建設に必要な図面や構造・工法・数量等を定める「実施設計」に取り組んでいます。実施設計は10月完成、工事は令和5年度着手を予定しています。

設計はサービス計画の策定と一体的に進めることで、「計画に沿わない設計」や「設計に沿わない計画」が生まれるリスクをできるだけなくし、町民にとって真に使いやすい施設の実現を図ることとしています。



▲設計打ち合わせ風景

◆設計はだれがしているの？

令和元年度に、プロポーザル方式によって「基本設計」の委託先を選定しました。全国各地の公共施設やまちづくりに携わる「株式会社スターパイロツツ（東京都）」と、高知県を中心に四十町でも仕事を手掛ける「有限会社建築設計群無垢（高知県）」の2社の設計共同体で構成されています。共同設計とすることで地域の気候風土や林業・製材状況などを理解し、地元根付いた設計に取り組んでいます。

また、基本設計時における設計意図を的確に反映させるため、実施設計も同じ委託先としています。

3月号（後編）では建物の具体的な設計について説明します！

「四十町文化施設」ビジョン

まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、ひとが集まる 四十町驛場

お問い合わせ先
企画課 文化施設整備推進室
☎ 22-3124

風花

季節の風景 2月

風花の言葉の意味を知らない人は、風花という言葉を見たり、聴いたりした時に思い浮かべる



イメージが、桜の花が散っている様子なのではないでしょうか。もちろん、本来の風花の意味は、風に吹かれて散っている桜花ではありません。晴天であるにもかかわらず、遠くの山で降っている雪が風に運ばれてきて舞う様が、まるで花が散っているかのように見える事を言います。

日本列島に、大陸から寒気が押し寄せると、日本海側では雪が降り、その雪雲の一部が日本海側と太平洋側の境目にある山脈を超えて、太平洋側へと流れ込んで風下側に落下します。雪粒が二〇〇メートル上空から毎秒一メートルで落下した時に、毎秒一〇メートルの風が吹いているとすると二〇キロメートル流されるそうです。

「風花」は、美しい言葉で美しい響きの日本語です。日常で普通に使い続けられてほしいものです。

今月の

「自然豊かな環境で子育てをして
いきたい」と願う、元ファイター!!



▲OPBF チャンピオンベルト!!本物!!

2020年に東京から十和地区川口に移住された塙さん。ご主人の賢治さんの思いと英理加さんの思いが重なったことだそうなんです。北海道出身の賢治さんは、東京で橋梁のメーカーに勤務されていましたが、早朝に出勤して、夜遅くに帰るという毎日。そんな日々の中で、地方での暮らしを考えると、ようになっていったと、英理加さんが感じていた都会生活への疑問が一致。二人が地方への移住を考えるようになったのは自然な成り行きだったのかもしれない。

実は、英理加さんは元々は四国の人。愛媛県砥部町のご出身です。お父様に至っては高知市内のご出身なのだから、英理加さんは砥部町で生まれ、地元中学から伊予高校へ進学。そして大学は長崎大学へ。自然が大好きな英理加さんは「探検部」に入部。そこで先輩だった賢治さんと出会いました。賢治さんと出会ったことは、もちろん運命的なのですが、その後お二人が結婚することになったという運命的なすゝめが、もうひとつの「運命的なすゝめ」がひとつついてきたのです。それはボクシング！

大学時代の賢治さんは趣味でキックボクシングをやっていました。それに興味を持った女子大生になりたての英理加さん。「キックは痛いので(笑)」ということで、ボクシングジムの門をたたきました。それがそもそもの始まり。大学を卒業して地元愛媛・松山で就職してからでもジムに通い続けたい英理加さんでしたが、賢治さんとの結婚を機に東京へ。英理加さん、なんと今度は東京のジムへ。「愛媛のジムから紹介してもらいました。さすがに東京へ行くとはボクシング人口も多くて、練習相手がたくさんいました！」

東京に行ったことで試合も組んでほしいという一児の母です。



はなわ えりか
塙 英理加さん